

釧路教育研究センター

令和7年度

事業計画



令和6年 7月 2日（火）
「校内研修の充実」



令和6年 8月 2日（金）
「いじめ・不登校への対応」



令和6年12月12日（木）
「体育教育の充実～対話的な学びを
充実させる授業を目指して～」



令和6年10月11日（金）
「絵画指導」の充実

1 運営方針

釧路市及び北海道における教育目標と教育推進の重点の具現のため、今日的な教育課題について実践的な調査・研究を実施し、その研究成果を発行物や研修講座の実施をとおして市内各校に広く発信していく。

また、1人1台端末の各教科等における利活用が進み、今後更なる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指すためにより効果的な活用が求められることから、ICTの活用を含めた総合的な研修機関としての機能を充実し、釧路市の教育振興のためにその役割を果たしていく。

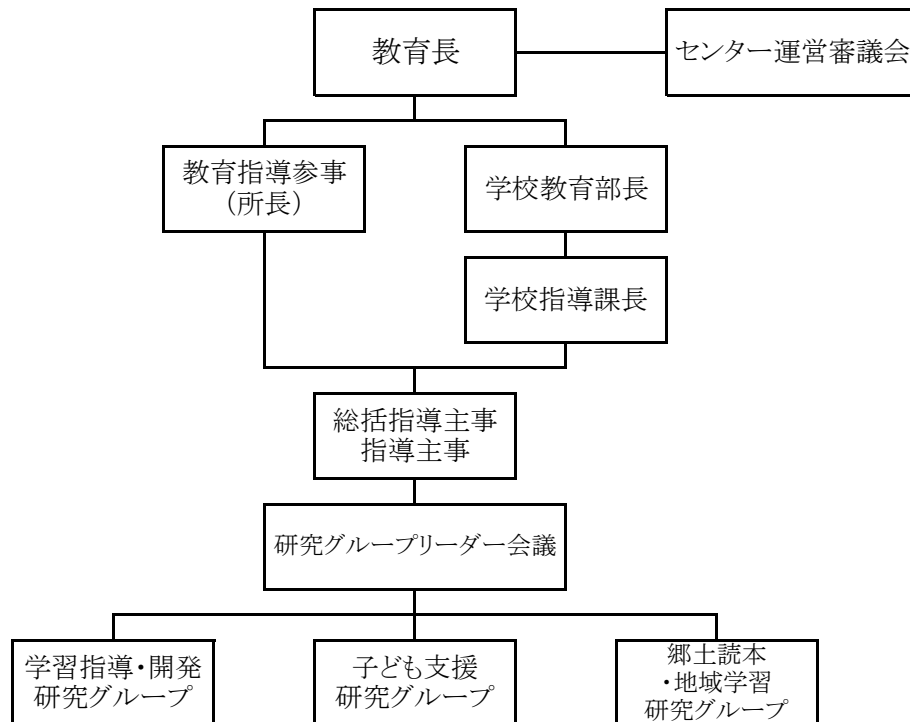
《事業推進の基本的事項》

釧路市教育委員会の教育行政方針や学校教育推進の指針に基づいて、本市における教育の振興・発展を図るための調査研究や研修事業を推進する。

- (1) 学校教育における今日的な課題に対応するため、専門的で、学校現場で生きる調査研究を通して教育活動を推進するとともに、研修講座を通して、教職員の資質向上及び教育実践の深化・高揚を図る。
- (2) ICT機器の活用を図り、研究センターとしての機能を生かして、教職員の実践的教育研究の奨励・普及に努める。

2 教育研究センター執行体制

(1) 機構図



(2) 業務分担

職 名	氏 名	担 当 事 務	備 考
教育指導参事	本 川 敬 一	総括・渉外	所長
総括指導主事	齊 藤 崇	総括補佐	
指導主事	関 本 裕 介	調査・研究の支援・助言	
	宮 原 美 里		
	赤 本 純 基		
	佐 藤 義 人		郷土読本・地域学習担当
	久 末 卓 矢		子ども支援研究担当
	寺 嶋 純 哉	リーダー研修・リーダー会議担当	学習指導・開発研究担当
研究グループ リーダー	主 任 小野寺 隆 (鶴野 小)	調査・研究の推進	郷土読本・地域学習担当
	副主任 齋 藤 政 人 (幣舞 中)	各研究グループの運営	子ども支援研究担当
	奥 山 愉美子 (美原 中)	研修講座等の協力	学習指導・開発研究担当

3 運営の重点及び事業の概要

(1) 調査・研究

ア 重点事項

- (ア) 教育の今日的課題を的確に把握し、その実践的・先導的な研究を通して課題解決にあたる。
- (イ) 効率的な研究体制を確立し、研修講座との関連においてその成果が実践的に生かされるようにする。

イ 調査研究概要

グループ	研 究 内 容	計 画	担 当	
			リーダ－	委員
学習指導・開発	釧路市標準学力検査の分析結果を基に、小中連携の視点を取り入れた小・中学校の授業公開と研究協議を通して、小中連携における授業の在り方について研究し、その成果を発信する。	1 か年計画	1 名	4 名 小-2 中-2
子ども支援	釧路市内各校における子ども支援に関する課題を踏まえ、教育相談や保護者対応の考え方やカウンセリングの方法などを研究し、実践を蓄積し、発信する。	1 か年計画	1 名	6 名 小-4 中-2
郷土読本・地域学習	ふるさとに誇りをもち、心豊かでたくましい子どもを育成するため、地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業などの教育資源（「ひと・もの・こと」）を最大限に活用し、子どもたちの主体的なキャリア形成を支援する授業の在り方を研究する。また、関係機関と連携しながら、郷土読本「くしろ」の内容について検討を行う。	1 か年計画	1 名	4 名 小-2 中-2

(2) 研究グループリーダー及び研究グループ委員

ア 研究グループリーダー

- ① 釧路市の様々な教育課題の解決と教員の指導力向上を図るため、実践的な調査・研究を実施するとともに、各研究グループの研究を推進し、市内各校へ発信する。

【業務内容】・各研究グループの運営、研究推進 ・研修講座の運営、協力
・所報、成果物の発行及び、教育情報の提供等
・毎週金曜日と研究グループ委員会が開催される火曜日に勤務し、時間は 17:30～19:00 とする。

- ② 必要に応じて、教員の指導力向上に向けた協議に参加し、その内容について各研究グループの活動に還元する。

職 名	氏 名	担 当	所 属 校
主任	小野寺 隆	郷土読本・地域学習研究グループ	鶴 野 小学校
副主任	齋 藤 政 人	子ども支援研究グループ	幣 舞 中学校
	奥 山 愉美子	学習指導・開発研究グループ	美 原 中学校

イ 研究グループ委員

釧路市の様々な教育課題の解決と教員の指導力向上を図るため、所属校での実践を活かしながら研究グループリーダーとともに研究グループの実践的研究を行う。

【業務内容】・研究グループの研究推進、成果物の発行・提供
・毎月2回勤務

■学習指導・開発研究グループ（4名）

氏 名	所 属 校
我 妻 萌 子	中 央 小学校
工 藤 夏 希	大楽毛 小学校

氏 名	所 属 校
早 川 将 光	共 栄 中学校
工 藤 拓 郎	鳥取西 中学校

■子ども支援研究グループ（6名）

氏 名	所 属 校
高 瀬 慎 史	鳥 取 小学校
石 原 明 香	青 葉 小学校
藤 原 崇	昭 和 小学校

氏 名	所 属 校
鈴 木 貴 子	共 栄 小学校
後 藤 雅 裕	青 陵 中学校
谷 口 友 彰	鳥取西 中学校

■郷土読本・地域学習研究グループ（4名）

氏 名	所 属 校
鵜 橋 大 志	青 葉 小学校
江 渡 明 香	清 明 小学校

氏 名	所 属 校
秋 保 健 太	幣 舞 中学校
高 木 優 人	桜が丘 中学校

(3) 研修講座

ア 重点目標

- ① 学校教育における今日的な課題や各学校が求める課題解決につながる教育内容や方法等について具体的に検討し、実践的指導力を高める講座を設定する。
- ② キャリアステージに応じた教員の主体的な研修ができるよう、授業改善や教科指導、教育相談等の講座を開催するとともに、教職員の積極的な参加を促し、資質向上を図る。
- ③ 1人1台端末の各教科等における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指すための効果的な活用方法について、実践的な研修を行う。
- ④ 校内研修の充実を目的としたサポート体制を充実し、各校の研究課題解決に向けた研修活動への援助・協力を行う。

イ 講座一覧（7～8ページ参照）

(4) その他

・ 関係機関との連携

関係機関・団体との連携を密にし、研修の充実と活性化に努める。

令和 7 年度 研修講座事業推進計画

1 運営の重点

- (1) 釧路市の教育課題に応えるよう研修事業の推進を図り、研修の効果を高めるために研修講座の充実と円滑な運営に努める。
- (2) 教職員の研修意欲を高めるよう研修事業の紹介・啓発に努める。

2 研修講座について

- (1) 研修講座の受講については、希望参加を原則とします。
- (2) 研修講座の要項については、講座の目的や内容等を確定している範囲で記述しています。
- (3) 研修講座の種類や内容については「第Ⅲ期 釧路市教育推進基本計画」「令和 7 年度教育行政方針」の施策等や、アンケートの要望事項を考慮して設定しています。
- (4) 研修方法は、講義、授業公開のほか、協議、実習・実験、視察・体験・オンラインなどの形態も取り入れ、研修効率を高めるよう配慮しています。

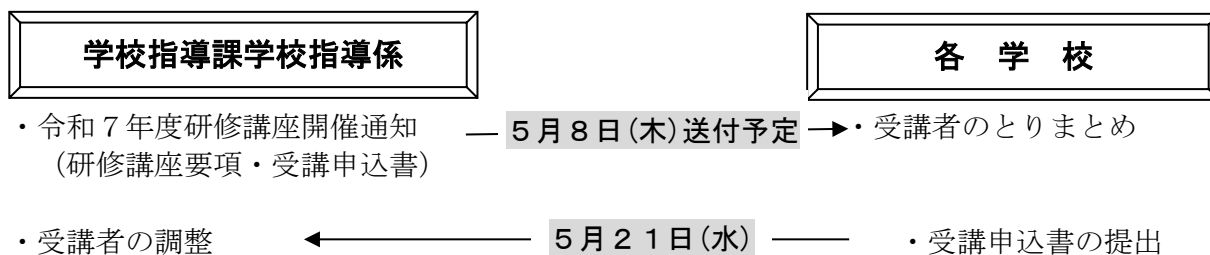
3 受講申し込み手続き

研修講座要項も含めて市内・管内に全てメールでの配信を実施しています。

- (1) 下記の要領で受講申し込みをしてください。**重点・参加者指定講座につきましては、釧路市内の学校 1 名以上の参加**を期待していますので、よろしくお願いいたします。

また、**釧路市内の学校には、1 人 1 回以上の講座への参加**をお願いいたします。

なお、「新たな研修制度」の実施により講座への受講者数の増加が見込まれますが、「第Ⅲ期 釧路市教育推進基本計画」や「令和 7 年度教育行政方針」の施策等にかかわる(重点・参加者指定)講座につきましては、参加対象を釧路市内の学校に限定している講座があることをご了承ください。



※各講座実施の 1 週間前を目途に、実施案内、要項及び参加者名簿を申込みのない学校も含めて(申し込み漏れを防ぐため)全校にメールで配信しますので、ご確認ください。

- (2) 予定人数に満たない講座が出た場合は、再度、募集を依頼し受講申し込みを受け付けますのでよろしくお願いいたします。
- (3) 受講申し込み後、やむを得ない事情により受講不可能となった場合は、講座開催の 1 週間前までに、学校指導課学校指導係宛お知らせください。
- (4) 追加申し込みについては、随時受け付けておりますので電話・メール等でご連絡ください。
(TEL 23-5189 FAX 25-5999 E-mail: gs-shido@city.kushiro.lg.jp)
- (5) 受講に当たり、配慮が必要なことがありましたら、受講申込書の「配慮事項」欄に記入してください。

4 その他

- (1) 各学校、研究団体等の行事や講師の都合などで日程を変更する場合があります。その場合は早期に各学校に連絡いたします。
- (2) 研修講座会場は各学校をはじめ、様々な場所を会場としています。会場等の変更があった場合は、事前に連絡いたします。

令和7年度 釧路教育研究センター 研修講座一覧

NO. 1		◎印：特別重点講座です。市内各学校は1名以上の参加をお願いします。 ☆印：参加者指定講座です。市内各学校は指定された参加者1名以上の参加をお願いします。 ●印：中学校重点講座です。市内中学校、義務教育学校は1名以上の参加をお願いします。					
1	☆	講座名	9年間の学びの連続性に向けた 国語科教育の充実			授業	研 修 目 的
		期日	10月6日(月)	対象	小・中・高	○	
		協力	学習指導・開発研究グループ				
		会場	釧路市立美原小学校、釧路市立美原中学校				
2	☆	講座名	9年間の学びの連続性に向けた 算数・数学科教育の充実			授業	研 修 目 的
		期日	12月18日(木)	対象	小・中・高	○	
		協力	学習指導・開発研究グループ				
		会場	釧路市立鳥取西小学校、釧路市立鳥取西中学校				
3	☆	講座名	9年間の学びの連続性に向けた 外国語教育の充実			授業	研 修 目 的
		期日	10月22日(水)	対象	小・中・高	○	
		協力					
		会場	釧路市立朝陽小学校、釧路市立桜が丘中学校				
4	●	講座名	ふるさとキャリアを核とした 総合的な学習の時間の充実			授業	研 修 目 的
		期日	11月20日(木)	対象	小・中・高	○	
		協力	郷土読本・地域学習研究グループ				
		会場	釧路市立幣舞中学校				
5	◎	講座名	文部科学省視学官と学ぶ 算数・数学科授業の在り方			授業	研 修 目 的
		期日	7月18日(金)	対象	小・中・高	○	
		協力					
		会場	釧路市立北中学校				
6	◎	講座名	不登校の児童生徒への対応			授業	研 修 目 的
		期日	7月3日(木)	対象	幼保認・小・中・高	―	
		協力					
		会場	生涯学習センター「まなぼっと幣舞」				
7	☆	講座名	校内研修の充実Ⅰ			授業	研 修 目 的
		期日	6月9日(月)	対象	小・中	―	
		協力					
		会場	釧路市交流プラザさいわい3階 大ホール				
8	☆	講座名	校内研修の充実Ⅱ			授業	研 修 目 的
		期日	12月17日(水)	対象	小・中	―	
		協力					
		会場	生涯学習センター「まなぼっと幣舞」602号室				
9		講座名	幼保小連携と協働 ～子供の学びのなだらかな接続を目指して～			授業	研 修 目 的
		期日	10月27日(月)	対象	幼保認・小・中・高	○	
		協力					
		会場	調整中				

令和7年度 釧路教育研究センター 研修講座一覧

NO. 2		◎印：特別重点講座です。市内各学校は1名以上の参加をお願いします。 ☆印：参加者指定講座です。市内各学校は指定された参加者1名以上の参加をお願いします。 ●印：中学校重点講座です。市内中学校、義務教育学校は1名以上の参加をお願いします。					
10	◎	講座名	子どもの権利について学ぼう ～いじめへの対応～			授業	研修目的 いじめの諸問題の解決に向けた講話や説明、協議、演習を通して、解決に向けた教育相談や保護者対応、組織的に対応する実践力の向上を図る。
		期日	7月10日	対象	幼保認・小・中・高		
		会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」705・706号室				
11	採用1年目	講座名	釧路市の教育 ～採用1年目研修会～			授業	研修目的 釧路市の学校教育における現状に係る説明と演習を通して、釧路市の課題や今後の教育活動の在り方について理解を深める。
		期日	8月1日(金)	対象	小・中		
		会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」				
12		講座名	特別支援教育の充実 ～通級指導における課題解決と指導力の向上～			授業	研修目的 通級指導における指導の意義と役割を再確認するとともに、児童生徒一人一人のニーズに応じた指導力の向上を図る。
		期日	8月28日(木)	対象	小・中		
		会場	生涯学習センター「まなぼつと幣舞」				
13		講座名	環境教育の充実			授業	研修目的 環境教育の取組を知るとともに、環境保全と私たちの生活との関係について見つめ、教員としての資質向上を図る。受講者は、自校における環境教育プランを作成する。
		期日	7月23日(水)	対象	幼保認・小・中・高		
		会場	釧路湿原野生生物保護センター				
14		講座名	1人1台端末を活用した情報活用能力を育成する学習指導の充実			授業	研修目的 端末を活用し、協働的な学びの充実を実現する授業を通して、「情報活用能力」の育成に向けた指導力向上を図る。
		期日	10月16日(木)	対象	小・中・高	○	
		会場	釧路市立興津小学校				
15		講座名	実技研修「書写指導」の充実			授業	研修目的 書写の基礎的な能力を育成する指導力向上を目指し、授業において活用できる指導法等について学ぶ。
		期日	10月24日(金)	対象	幼保認・小・中・高		
		会場	調整中				
16	☆	講座名	学校における読書環境の充実			授業	研修目的 釧路市中央図書館と連携し、学校での読書環境づくりの工夫や図書館等の連携など、先進的な実践事例等の交流を通して、読書環境の充実を図る。
		期日	7月17日(木)	対象	小・中・高		
		会場	釧路市中央図書館7階多目的ホール				
17	◎	講座名	公開研に行こう ～大楽毛小・中学校公開研究会～			授業	研修目的 「釧路市が目指す授業を基にした授業改善」をテーマに、授業公開や研究協議を通して理解を深める。
		期日	10月30日	対象	幼保認・小・中・高	○	
		会場	大楽毛中学校				

令和7年度 釧路教育研究センター 教育講演会

		対 象	講師・講演内容	会 場
令和8年2月7日(土)	午後	幼稚園・保育園 認定こども園 小学校・中学校 高校・一般	未定	コーチャンフォー 釧路文化ホール 小ホール

資料 2

令和6年度 事業報告



令和6年10月22日（火）
「学力調査官と学ぶ全国学調を踏まえた算数・数学科授業の在り方」



令和6年10月3日（木）
「今求められるカウンセリングの実際」



令和6年10月30日（水）
「幼保小連携と協働
～子供の学びのなだらかな
接続を目指して～」



令和6年12月19日（木）
「みんなで学ぼう！「生命（いのち）の
安全教育」」

《研究紀要等の発行》

	発 行 物	部 数	配 布 先
1	・「算数・数学科授業づくり リーフレットNo. 1」 (学習指導・開発研究グループ)	1 0 0 0 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関 等
2	・「算数・数学科授業づくり リーフレットNo. 2」 (学習指導・開発研究グループ)	1 0 0 0 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関 等
3	・所報「釧路教育」 No. 317 No. 318 No. 319	3 0 0 3 0 0 3 0 0 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校 教育関係機関 等
4	・「教育相談の在り方」パンフレット (子ども支援研究グループ)	1 0 0 0 H P 掲 載	小・中学校 義務教育学校

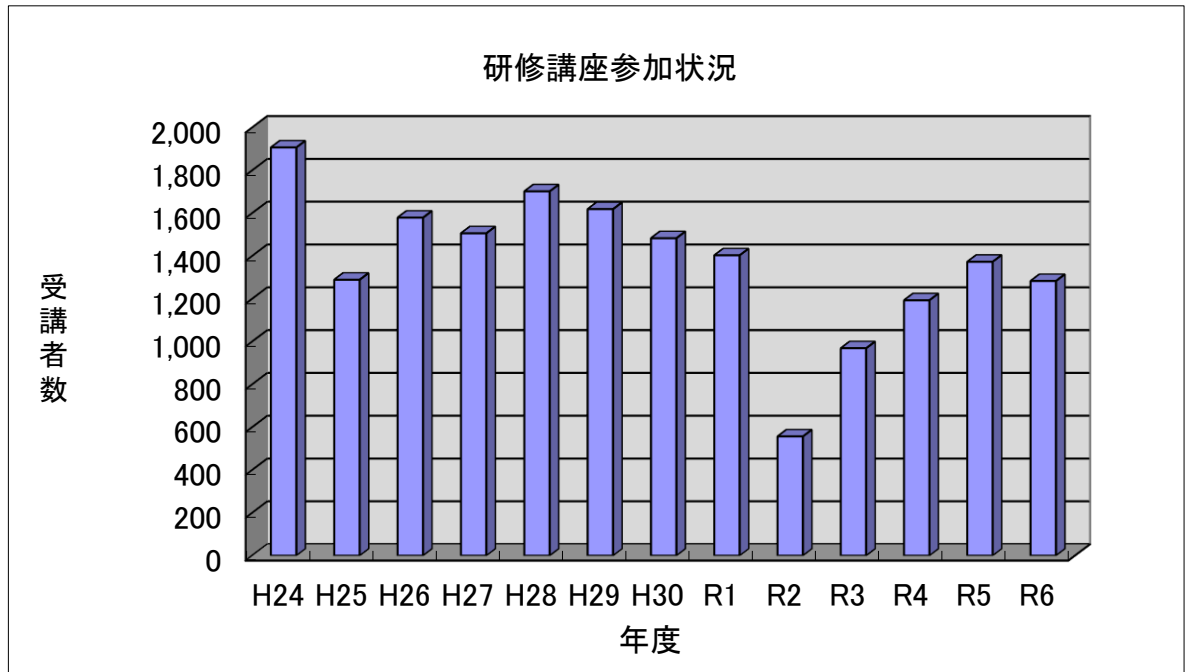
《 研 修 講 座 参 加 状 況 》

令和6年度は、オンラインと集合を併用しながら21講座を開講した。(令和5年度に開講した研修講座数は24講座※「外国語教育の充実」は中止)

※()は令和5年度受講者数。

	市内小中教職員	管内小中教職員	幼・高・一般等	合 計
受講者数	1211(1270)	29 (43)	43(60)	1283(1373)

年度	受講者
H24	1,907
H25	1,289
H26	1,579
H27	1,506
H28	1,702
H29	1,619
H30	1,483
R1	1,403
R2	557
R3	969
R4	1,193
R5	1,373
R6	1,283



《市立小中教職員参加状況》 釧路市立小中学校教職員に対する受講者数の比率(%)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
受講者数	1,068	935	1,266	1,123	1,424	1,385	1,305	1,265	528	860	1,063	1,270	1,211
比率(%)	119.2	108.6	145.9	130.1	163.8	153.4	145.2	142.1	62.6	105	125.4	148.6	141.7

※R2は新型コロナウイルス感染症の影響により14講座のみ開講

※R6はR5と比べ講座数減少に伴い、受講者数も減少



釧路教育研究センター研修講座 参加人数（令和6年度実績）

番号	講 座 名	期 日	会 場	対 象	参加人数
1	国語科教育の充実	1 月 28 日（火）	釧路市立幣舞中学校	小・中・義・高	35
2	学力調査官と学ぶ全国学調を踏まえた算数・数学科授業の在り方	10 月 22 日（火）	釧路市立釧路小学校 釧路市立幣舞中学校	小・中・義・高	112
3	理科教育の充実	11 月 19 日（火）	釧路市立大楽毛中学校	小・中・義・高	36
4	外国語教育の充実 ～コミュニケーションの目的・場面・状況を設定した言語活動を通して～	10 月 17 日（木）	釧路市立北中学校	小・中・義・高	58
5	体育教育の充実 ～対話的な学びを充実させる授業を目指して～	12 月 12 日（木）	釧路市立愛国小学校	小・中・義・高	41
6	小中連携による算数・数学科の「釧路市が目指す授業」	12 月 23 日（月）	釧路市立芦野小学校	小・中・義・高	69
7	地域社会への愛着をはぐくむ「ふるさと教育」の充実	11 月 28 日（木）	釧路市立清明小学校	幼・保・認・小・中・義・高	22
8	今求められるカウンセリングの実際	10 月 3 日（木）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	幼・保・認・小・中・義・高	73
9	幼保小連携と協働 ～子供の学びのなだらかな接続を目指して～	10 月 30 日（水）	認定こども園よしの幼稚園・ 釧路市立大楽毛小学校	幼・保・認・小・中・義・高	80
10	校内研修の充実	7 月 2 日（火）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	小・中・義 (研修担当教員対象)	42
11	いじめ・不登校への対応	8 月 2 日（金）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	幼・保・認・小・中・義・高	74
12	釧路市の教育 ～採用1・2年目研修会～	7 月 31 日（水） 8 月 1 日（木）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	小・中・義 (採用1・2年目教員)	55
13	特別支援教育の充実 ～児童生徒の実態把握と授業づくり～	7 月 19 日（金）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	小・中・義	55
14	みんなで学ぼう！「生命（いのち）の安全教育」	12 月 19 日（木）	釧路市立桜が丘中学校	幼・保・認・小・中・義・高	30
15	環境教育について考えよう！	7 月 24 日（水）	猛禽類医学研究所	幼・保・認・小・中・義・高	27
16	1人1台端末を活用した学習指導の充実	9 月 25 日（水）	釧路市立大楽毛小学校	小・中・義・高	67
17	「絵画指導」の充実	10 月 11 日（金）	釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞	幼・保・認・小・中・義・高	29
18	春採中学校区の公開研に行こう ～釧路市立興津小学校公開研究会～	11 月 8 日（金）	釧路市立興津小学校	幼・保・認・小・中・義・高	70
19	春採中学校区の公開研に行こう ～釧路市立桜が丘小学校公開研究会～	11 月 15 日（金）	釧路市立桜が丘小学校	幼・保・認・小・中・義・高	103
20	春採中学校区の公開研に行こう ～釧路市立春採中学校公開研究会～	11 月 22 日（金）	釧路市立春採中学校	幼・保・認・小・中・義・高	108
21	公開研に行こう ～釧路市立昭和小学校自主公開研究会～	11 月 20 日（水）	釧路市立昭和小学校	幼・保・認・小・中・義・高	97

【釧路教育研究センター 教育講演会】

講 師 ・ 演 題 等	期 日	会 場	対 象	参加人数
講師： 鶴 岡 慎 也 氏 （元プロ野球選手・野球解説者） 演題： 「夢を叶える準備」	2月8日（土）	コーチャンフォー釧路文化ホール	幼・保・認・小・中・義・高・一般	512

【北海道通信 令和6年8月9日】

釧路市教委 採用1・2年目研修会

子が主役の授業目指し

本川指導参事らが講演など



【釧路発】釧路市教委は7月31日から2日間、市生涯学習センターで「釧路市の教育」採用1・2年目研修会を開催した。市内小・中・義務教育学校に採用された1・2年目の教員が対象。2日間で55人が参加した。このうち初日には29人が参加。演習やグループ協議などを通して、授業改善や児童生徒理解、日頃の悩みなど、様々な角度から研修に取り組んだ。市教委の本川敬一教育指導参事と指導主事らが講師を務め、市の学校教育の現状などを説明。グループ協議や講演などを通して授業改善や生徒指導などについての研鑽を深めた。

本純基指導主事が研修会の目的や内容について説明。研修意義などを確認した。

動の在り方について理解を深め、市の教員としての意識と資質の向上を図ることがねらい。はじめに、赤

つぎに、佐藤義人指導主事が「求められる学習指導について」と題し解説。市標準学力検査結果などをもとに、市が目指す授業について話した。授業改善の視点を、子どもたちが主役の「学ぶ意味と学ぶ楽しさを感じられる授業」とした上で、教わる授業から自ら学

び取る授業への転換を示唆。キーワード「あいあふれる授業の展開」を提示したあと、これらを踏まえた演習を実施した。6年生算数「分数のかけ算」の指導案を学びがい・やりがい・知的好奇心を大切にしたい学習課題の設定を切り口にして作成。参加者はグループ協議などを通して課題などを明確にした。寺嶋純哉指導主事は生徒指導を中心に、問題行動や不登校など、生徒指導上の諸課題や多様な背景を持つ児童生徒の増加について解

説。市の児童生徒の状況を確認した上で、初任段階教員に求められる力を明示した。実践上の視点として、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成などを挙げ、心理面や学習・健康面などの発達を支える生徒指導の重要性を強調した。続いて、複数の問題行動等の事例をもとに演習を行い、グループ協議などで児童・生徒理解の大切さと一人ではなくチームで対応すること、人間力の向上につながることを確認し

た。本川教育指導参事は「若手教員に期待すること」と題し講演「写真」。最初に「なぜ、教師になったの？なぜ目指したの？教師になつて良かった？」と、教師になつた動機と現在の心境について問いかけ、あらためて今の自分の気持ちと向き合させた。市の教育課題や実態、市が目指す授業について解説したあと「子どもが主役の授業」をぜひ目指してほしいと話し、そのためにも多くの授業を見ることが、そし

てたくさん授業を見てもらうことを提案。成功授業も失敗授業も見てもうことで得るものが大きいと力を込めた。最後に本川参事は、教師としての自覚とプライドを持ちつつも、決して悩みは一人で抱え込まないことを強調。そして最初と同じ質問「あなたは教師になつて良かったですか？」と投げかけ、これからの釧路の教育を支えてくれる若い力が、自らの足で確実に歩みを進めてくれることに期待を寄せた。

【北海道通信 令和6年10月27日】



【星形】
本時の目標を「問題の条件を変えて○に入れた状態」

野哲子教諭が5年生「変わった方」を調べよう、午後、略舞中の新谷明日香教諭が2年生「文字を用いた式」をそれぞれ公開した。

授業は午前、釧路小の山野哲子教諭が5年生「変わった方」を調べよう、午後、略舞中の新谷明日香教諭が2年生「文字を用いた式」をそれぞれ公開した。

釧路市教委 算数・数学科研修講座
子が解決したい問題を
文科省・島尾学力調査官招き

【釧路発】釧路市教委は22日、研修講座「文部科学省学力調査官と学ぶ全国学力調査を踏まえた算数・数学科授業の在り方」を開催した。釧路小学校と幣舞中学校の2校で授業を公開したほか、文科省初等中等教育局教育課程課の島尾裕介学力調査官による講演会を行い、算数・数学科における授業改善の在り方について理解を深めた。



題解決場面での児童生徒の思考の変化などについて細かく解説。授業のポイントなどを示唆した。

全国の学力・学習状況調査の結果を踏まえた算数・数学科の授業公開と研究協議を通して、指導の在り方について理解を深めることがねらい。市・管内の小・中・義務教育学校・大学生114人が参加し、算数・数学科の授業力向上に向けた授業改善について研鑽を積んだ。

授業は午前、釧路小の山野哲子教諭が5年生「変わった方」を調べよう、午後、略舞中の新谷明日香教諭が2年生「文字を用いた式」をそれぞれ公開した。

この関係性を説明するた「目分が調べた図形が2倍（3倍）になることを、文字を使って説明しよう」という課題を提示。ペアで試行錯誤しながらホワイトボードに記入したものを黒板に掲示した。「正方形は2倍だが、立方体は3倍になっている」など、結果をもとに共通点や相違点に気づき、平面図形は2倍、空間図形は3倍という結論から、正五角形は2（ $a+b+c+d+e$ ）や立方体は3（ $a+b+c+d+e+f+g+h$ ）など、文字を使って説明した。

授業後に行われた講演会では講師の島尾氏から本日の授業について、導入や問題把握、見通しや問題の提示、知識・技能が目標の授業（つり）について考える必要性を強調。正答率、解答類型の反転率から傾向を捉え、報告書や過去調査を参考にするとともに、児童生徒が解決したいと思える問題を設定するなど、今後の算数・数学科の授業改善に期待を寄せた。

【釧路新聞 令和6年10月27日】

「フロッピーが棚に何個収納できるかを実演する児童」



教諭の指導力向上へ
授業公開や研究協議
釧路小と幣舞中で講座
釧路市教育委員会（岡部義孝教育長）は22日、釧路小学校（加藤誠二校長）と

幣舞中学校（小玉功校長）で、研修講座「文部科学省学力調査と学ぶ全国学力調査を踏まえた算数・数学科授業の在り方」を開いた。釧路管内の小中学校教諭約110人と同省の島尾裕介学力調査官が、両校の授業を参観した。

同講座は、算数と数学科の授業公開と研究協議を通して、小中の連携や指導力向上などを目的に実施。今回は同小5年生、同中2年生の授業を公開。終了後に研究協議を行い、島尾氏から助言を受けた。

このうち釧路小では「高さ80cmの棚に、高さ18cmのフロッピーは何個重ねて入ることができるか」という問題を提示し、児童が手を動かして考える活動を行った。

「できるか」という問いを提示し、児童が手を動かして考える活動を行った。島尾氏は「準備もろっさりされており、子供たちが主体的に学ぶことができる素晴らしい授業だった」と、市教委の本川敏一教育指導参事は「きょうの内容を各校に持ち帰り、指導力向上や小中連携に生かしてほしい」と話していた。（森崎博史）

《 研究センター 新聞記事 》

【北海道新聞 令和6年10月30日】

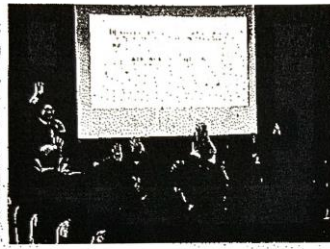
効果的な授業 教員研修

市教委 文科省の講師招き初開催

釧路市教委は、全国学力・学習状況調査（学力テスト）の問題作成などを行う文部科学省の担当者を講師に招き、教員向け研修を開いた。市立小中学校の教諭による算数と数学の授業を講師が視察し、効果的な授業づくりのためのフィードバックを行った。市教委によると、同省の担当者を招いた研修を実施するのは初めて。

釧路教育研究センターで毎年実施している研修講座の一環。国立教育政策研究所の学力調査官、島尾裕介さんが講師を務めた。釧路管内6市町村から小中高の教諭計112人が参加した。午前は市立釧路小、午後は同幣舞中で、算数と数学の授業を視察。島尾さんが、教諭が課題を子どもに示すタイミングや、声かけの仕方をアドバイスした。

管内6市町から教諭が参加した研修会場



島尾さんは本年度の学力テスト結果を紹介し、全国より道内の無回答率が高いことを指摘。「子どもが自分で表現する機会を授業の中で大切にしたい」と呼びかけた。授業を公開した釧路小の山野哲子教諭（49）は「小中学校で扱う内容のつながりを意識して授業をする大切さを改めて学んだ」と話していた。

（三島七海）

【北海道通信 令和6年11月27日】

子の可能性を広げて

小中連携へ釧路市春採中校区公開研

桜が丘小で6年算数乗入授業

【鉏路発】鉏路市内の春採中学校区3校（春採中学校・興津小学校・桜が丘小学校）による小中連携を柱とした公開研究会が8、15、22日にそれぞれ開かれた。市内の小・中・義務教育学校から3日間て延べ約330人が参加。小中連携の効果や主体的に学びを進める力を高める授業づくりなどについて研鑽を深めた。

8日に興津小（隈江幸男）るのは初めての試み。

校長）、15日に校が丘小（照井貴幸校長）、22日に春採中（新井真良校長）でそれぞれ開催され、釧路教育研究センター研修講座「春採中学校区の公開研に行こう」を兼ねている。小・中ジョイントプロジェクトを

また、13年度には義務教育学校としての開校を予定。スムーズにスタートが切れるよう授業改善に向けた研修などを進めており、小中連携による子どもたちの可能性を広げるため、授業改善の取組や情報共有など

通した取組の一環として、実践事例の交流や授業力向上を目指すことを目的に実施された。

5、6年度、市の研究指定を受けている3校は各校共通理解のもと研修を進め、春採中の教員による乗り入れ授業なども実施している。市教委が小中連携をねらいとして研究指定をす



どを行っている。

春採中学校区の研究主題「釧路市が目指す授業」を基にした授業改善」を柱に、自校の実態に合わせた副主題を設定。市が目指す授業の構築に向け、日々取り組んでいる。

15日には桜が丘小で公開

研究会を開き、市内の小・中・義務教育学校・大学から約110人が参加。小中連携を柱にした授業改善の取組や研究内容等について発表した。

授業は、4年生理科「とじこめた空気や水」（我妻汰朗教諭）、5年生社会科「日本の工業生産の今と未来」（大沼龍之介教諭）、6



重さは軽すぎて測れない。なるべく様々な重さを出された中で、紙の重さと枚数が比例関係になっているものに着目。枚数を増やせば重さを測れることに気付き、10枚の重さを測定。10枚で37gになったことから本時の課題「重さが枚数に比例することを使って解決しよう」を提示し

年生算数科「比例」(大内た。

拓哉教諭（春採中）の3本を公開。うち6年1組では春採中の数学科・大内教諭による乗り入れ授業を行った（写真上）。

本時の目標を「A4の用紙における重さと枚数の関係に着目し、それらの関係

「表が使える」という式でもできるような、枚数と重さとの比例関係をもとに試行錯誤を繰り返した。表を使って枚数を10枚ずつ増やして対応する重さを求めたり、 $37 \times 40 = 1480$ から40枚の重さを導き出したりの

を表や式を用いて表現して、問題を解決する方法を説明することができる」とした。

〇枚の紙を用意することができると確認。枚数と重さの比例関係に着目すること

はじめに「数えないで400枚を用意する」にはどうしたらいいかという問題を示し、400枚を用意するための情報を採った。「厚さを測れば」「薄すぎて無理だよ」「重さは？」「1枚の授業改善に取り組んでいる

とした上で「特別な授業ではなく、どの教員も毎日普通にできる授業を目指している」とし、小中連携で取り組んできた成果について意見を求めた。

は中学校区の小中連携を意図した研究会に謝意を示し「授業中に子どもたちの顔を見てるのは先生。子どもたちの思いを見逃すことなく、一人ひとりの可能性を広げてほしい」と話し、誰一人取り残さない授業の構

築に期待を寄せた。
続いて研修部長の宝力駿
教諭が同校の研究概要と研
究経緯などを説明。市が目
指す授業に向けた取組など
を発表した。

このあと、授業公開の3
部会に分かれ、二つの視点

一市が目指す授業の手だてが効果的か」「個人目標の手だてが効果的か」を柱に、活発に研究協議を行った。

者30人が5グループに分かれ二つの視点を柱に協議写真下し。乗り入れ授業時間目の本時の学習展開について「子どもの学ぼうとする意欲を強く感じた」

「導入を身近な人(物)から入ることで興味・関心が引き出されていた」という声が上がするなど、乗り入れ授業の成果を評価する声が多く聞かれた。一方「表の

「チョークで結ぶ方が分かりやすい」「400枚あるからどうかを最後に数える作業が小学生には必要では」といった意見が小学校教員から出されるなど、小・中学校教員がそれぞれの立場で意見を出し合い、小中連携

の良さを生かしながら、主体的に学ぶ授業づくりについて協議を深めた。

子どもの姿を引き出せるよう働きかける—の2点について解説。この2点を取り入れた授業を日常化すると

ともに、多くの先生に授業を觀てもらい意見をもらうことや多くの授業を真剣に參觀することを提案。チャレンジの積み重ねの量が授業力向上につながると訴えた。

【北海道通信 令和7年1月9日】

釧路市教委 算数・数学研修講座

学ぶ意味、楽しさ実感

芦野小で小中連携公開授業



開発研究グループ委員の尾形加奈子教諭（芦野小）と高木優人教諭（桜ヶ丘小）が、小中連携公開授業の様子を見学している。

【釧路発】釧路市教委は、授業力の向上を図った。昨年12月23日、芦野小学校（高田町）で研修講座「小中連携による算数・数学科の『釧路市が目指す授業』」を開催した。市内の小・中・義務教育学校から67人が参加。公開授業Ⅱ写真Ⅱや研究協議などを通

中、算数・数学科の授業を公開した。尾形教諭は4年生「面積の求め方」と表し方、高木教諭は事前配布による1年生「比例と反比例」をそれぞれ公開。高木教諭の授業については事前に配信されているため、参加者は視聴した上で講座に臨んでいる。

時の目標を「L字のよう、面積の多様な求め方について説明することができ」と設定した。前時の学習から、長方形の面積の求め方を確認したあと「L字の図形の面積はどうやって求める？」という本時の課題を提示。L字の面積を求めるため、既習の図形の面積（長方形・正方形）を活用しようと様々な角度から思考を深めていった。

「長方形にすれば求められるかな」「分けたら長方形になるよ」「新しい図形を加えても長方形になる」など、形を長方形に変えることに着目した。それぞれ二つの長方形の面積を足したり、全体の長方形からつけ加えた部分を引いたり、一部を動かして違う形の長方形を作ったりするなど、多様な求め方について説明。分けて考える方法（補助線を縦や横に引く）やつけ加えてから引く方法、動かして求める方法などから「分ける」「つけ加える」「動かす」ことで面積が求められることを確認した。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に、主体的・対話的に深い学びの実現に向けた算数・数学科の授業の構築について説明。市標準学力検査の結果などをもとに課題などを指摘した。特に中学1年生でその傾向が強まることから、小中で共通する授業づくりのポイントを共有する重要性を訴えた。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に、主体的・対話的に深い学びを実現する授業が構築されることで、子どもたちが主役の「学ぶ意味と学ぶ楽しさを感じられる授業」につながることを強調した。

最後に、開発研究グループでは「授業づくり短編動画」や「算数・数学科授業づくりリーフレット」などの作成に取り組んでいることを紹介。学ぶ意味や楽しさを感じることができるよう授業構築に向け、共に進めていくことを呼びかけた。

このあと二つの授業について研究協議が行われ、校種間連携や協働の在り方、授業力の向上などについて研鑽を積んだ。

【釧路新聞 令和7年2月8日】

ダル、大谷の余話披露

釧路教育研究センターの教育講演会が8日、コナチンフォール釧路文化ホールで開かれた。プロ野球・北海道日本ハムファイターズなどで活躍した野球解説者の鶴岡慎也氏(43)が夢を叶える準備と題し、日ハム時代にコナチンを組んだダルビッシュ有投手や大谷翔平選手とのエピソードなども披露しながら、自身の野球人生を振り返った。

元日ハム鶴岡氏、釧路で講演



実演も交えて現代のバッティング理論を紹介した鶴岡氏

講演会には親子連れら約600人が訪れ、当初予定していた小ホールから大ホールに急ぎよ会場を変更した。講演で鶴岡氏は、夢を実現させるツールとして12歳で自身が描いた「なりたい自分の地図」を紹介。高校まで順調だったが、肝心のドラフトに漏れ、社会人野球の道に進んだ。二番重で野球ができる環境に「これでもいいかな」と思った頃、同級生の川崎宗則選手の活躍に奮起。日ハムの入団テストを受け、当時の大沢啓二監督に認められプロ野球選手としての第一歩を刻んだ。

プロの捕手として成功できた要因として「下位で入団したこと」「謙虚になった。投手へのリスペクトが生まれ、野球で一番大切なバツテリの連係がうまくいった。ダルビッシュ有投手とのエピソードが起った。」(石川直樹)

ドでは「最初に受けた時に超一流の素質を感じた。ダルが実践したトレーニング方法が日本の投手の質を変えた」と語り、子供たちには「準備を怠らず、チームのため何ができるかを一番に考えて」と助言した。

子供たちから多くの質問があり、「体を大きくすることが大事なので飯をいっぱい食べて」などアドバイス。今年の日ハムを「若手が成長したので優勝争いするのは間違いありません」と高く評価すると、会場から大きな拍手が起った。

【北海道新聞 令和7年2月9日】

明日何をやるか 夢から逆算して

元日ハム鶴岡さん講演

プロ野球北海道日本ハムOBの鶴岡慎也さん(43)を招いた教育講演会「夢を叶える準備」(釧路市教委主催)が8日、市内のコナチンフォール釧路文化ホールで開かれ、親子連れら約600



夢や野球への向き合い方について語る鶴岡さん

人が耳を傾けた。講演で鶴岡さんは幼少時からプロ野球選手を目指した経験から、25歳の時になりたい自分から逆算して「明日何をやるか

が重要」と話し、準備や行動の大切さを強調した。また、日本ハム入団時はドラフト最下位の8位指名に落ち込んだ一方、自身を過信せず他の選手をリスペクトする姿勢が身に

ついたとした。「投手とうまく連携ができるようになり、捕手として活躍することにつながった」と振り返った。

野球クラブチームに所属する北海道教育大付属釧路義務教育学校8年の山瀬一太郎さん(13)は「自分もチームメイトを尊重しながら、野球に打ち込んでいきたい」と話していた。(小笠原陸)

【北海道通信 令和7年2月10日】

準備をすることが大切

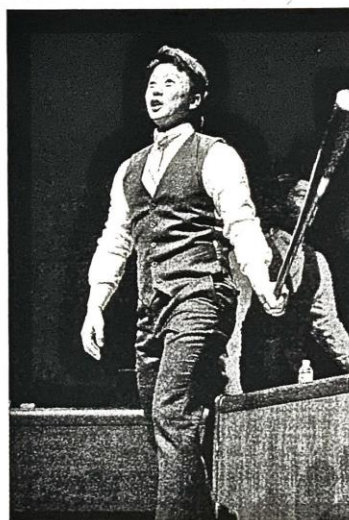
夢の実現へ元日ハム・鶴岡氏

釧路市教委 教育講演会

【釧路発】釧路市教委は2月上旬、コーチャンフォー釧路文化ホールで教育講演会を開いた。元北海道日本ハムファイターズ選手の鶴岡慎也氏が「夢をかなえる準備」をテーマに講演。集まった約600人に

向けて、なりたい大人になるために計画的な努力をすることの大切さを説いた。講演会は、教育・文化振興のために学校やPTA、地域住民、各教育団体などを対象に、教育・文化振興に向けて考える機会とするもの。

鶴岡氏は講演で「大きな目標を達成するためには、たくさんの準備が必要」として、準備をキーワードに選手時代の様々な努力を振り返った。「現役時代は、毎年1年間の目標を宣言し



て自分との約束を守る習慣があった」と明かした。

子どもたちに向けて、25歳の時になりたい自分から逆算し、目標にたどり着くために必要なことを考える「人生の目標シート」の作成を提案した。

鶴岡氏自身が12歳の時に作成した人生の目標シートと、実際にプロ野球選手になった経緯を比較。思い描いたとおりに進まないことが多かった野球人生を伝え、上で「うまくいかず、挫折を味わったから今の自分

壇上でバットの振り方を見せる鶴岡氏

がある。自分にできないことができる相手へのリスペクトを忘れないことが、何よりも大きな成長につながった」と述べた。

参加者との一問一答では「今まで一番つまらなかったのは何か」という質問に対して鶴岡氏は、けがによって野球ができなくなっただけを挙げ「復帰するためにたくさんご飯を食べ、より強い選手になるために備えた」と、あらためて準備することの大切さを強調した。

最後に、参加者に向けて「相手の立場になって物事をよく考えることが、リスペクトを持つ第一歩になる。誰が相手でも、進んで実行してほしい」と期待を込めた。